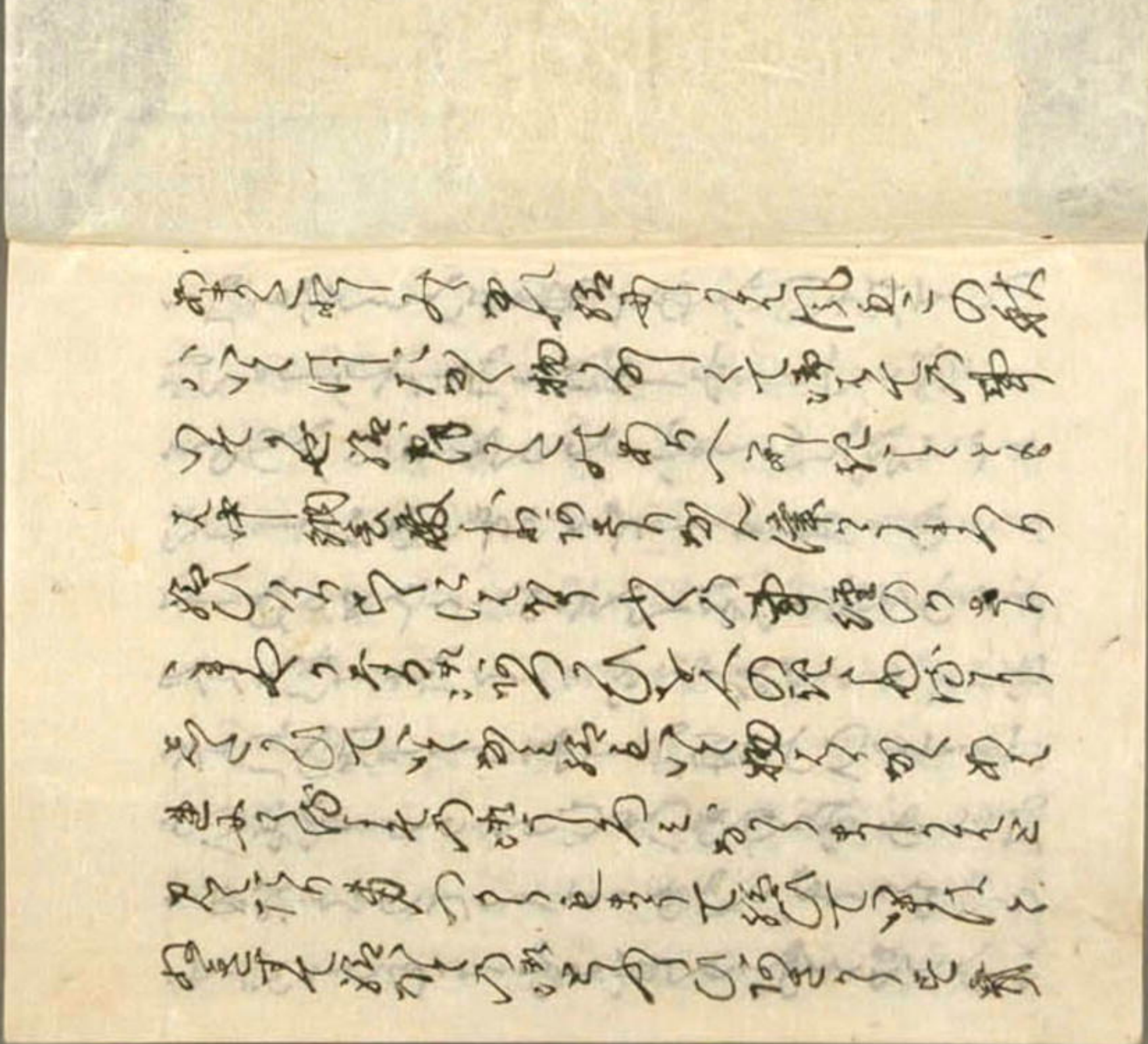
わ倉子記

WA 7
(47)
263



[illegible]

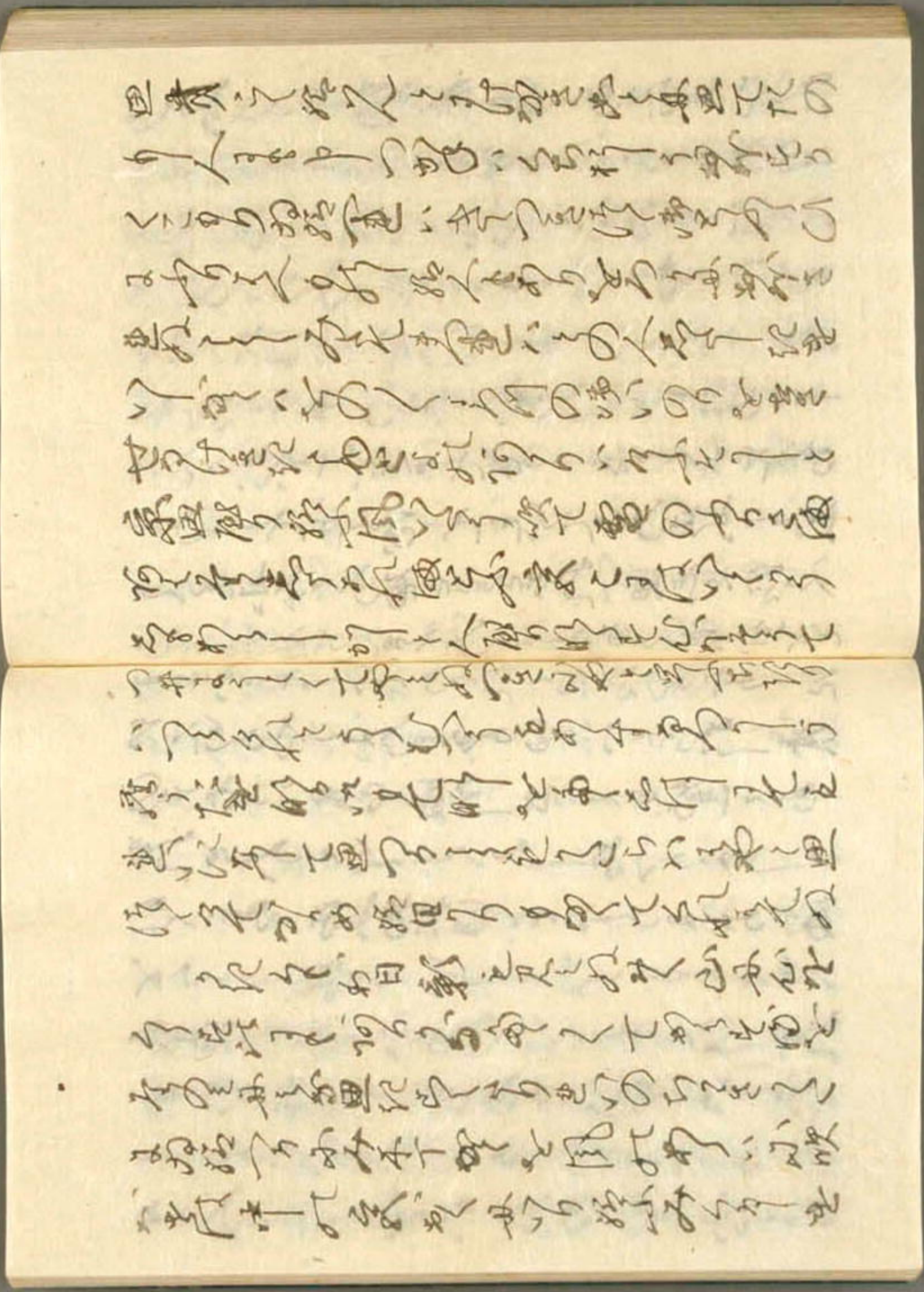
[illegible]

[illegible]

こし給てめてみわきせさせ給ひの給ひもせす
きゝし御ありさまもいとしくハえあきらめ給は
てかくてハかゝらすよりかはしく給ふ人々
もやうかゝり事にハつゝましき事なきまゐ
せさせおかしかりさりし事ともなりし人のお
ほえハわりしりさりけるともひとめのほ
かき御覧しさきてまゐりなく給へと待
わかきわか給ハ給てもまいらせ給かりぬと
給つゝひとひとり
よれつ給はかりひやもとん給ひなさけ
の御心のほけて給ひつゝとゝき給ひつゝすら
つさかゝれてゝ内にかえんかうとおほしてよ
給まてみさ御ひハ給ひしうおほしとう
さ給めたら物おもひてそ思さりし人まて
きこえ人もと給てまゐらせためやうな
内につきやうをいらうせめてあてせさせ給
ての給ひさんかの御ことるひとかき給へ
みへうき給ひてうへて給御心つゝひ給
さけは給ひひとりとまゐらせてとゝ給ふ人に
御んなくらもさ給ひとくし 斎宮の御こと

をゆうつきふくそへハと思ゆるして心まちうき
給つゝり山谷よりそのわりむかりおもりしあくあそ
ひめふ天まきゝぬのしくわりさ海こゆるとほ
かくふ金ら出てまう紀んてゝてまつりさう
志とつれわりさ海いそれゝとみしの神るとみ
ちを娘きさら舟乃かさらみみしきとと申りふ
姫紀い浮ぬりのく神と風うけさてあそろ
神とろ紀なそおほ橋よ人乃かひきう一つき
よそまつろ海ろく志乃ひ給め留ゝらまさい
そこまふいろく紀とを給まゝ浮またかろく
あろりてもゝ海のかのひろゝとゝれ海
ちいそてめてみわとふりふをはくふ也給ゝき心
まう老まても也かとも浮つるひろりたそ道
晴ま汝船浮しよきくわそひけゝゆとはくる
給をゝらとうせくくかさしく海仙郷を
のふ物を吹てそのくふ仙桂きゝら宮しき浦の
ふ家いめふゝ乃海わゝらみくをゝらく人
のゝみゝふとのと御心をゝかり晴すり浮き
ゝらたいやうしてうそ娘さゝてめ画の人乃海
まひそめしみつめて、あく参んと申一細ても

ゆりてゆの〳〵をあらうてきよめて祓をはらひ
ゝ中臣のおほはらへをとなへてさねのゝ神の不
の御ものゝ〳〵をはらへ〳〵給へ祓すいたまへとさけ
てゝうりの花を前にたてまつりて祓をはらへ
のゝれあり祓はものゝひ給ふとをれとものつゝ
ゝひろうりて後ゝ祓をたゝめ給ふ日さか
はをおもく〳〵き人ゝあまきをおくてすは
たゝ祓をゝまゝ小書を祓をゝめ給ふ祓
て後ゝ人あまきをゝてきまいりゝゝ丹をたか
くかりゝ中臣ゝ中納言ゝとかりて

物のまうりあるかりゝ神ゝ祓給ふ
忘ひをゝれ給ひひ給ふ〳〵給ふ〳〵て也
おかをゝ小又中臣さゝ殿ゝ人おゝ給ふ
たゝまつり給ふ〳〵むめ〳〵ゝ中をくゝ行
くてゝ魚豆給ふんをゝ給ふ〳〵給ふ
給てまつ出給ふ〳〵やう給ふ〳〵給ふ
給ふ給て給ふ〳〵給ふ〳〵給ふ
給ふ給て給ふ人めゝ給ふ給ふ〳〵給ふ
ひゝをゝ給ふ〳〵給ふ〳〵給ふ
てゝ給ふ給ふ給ふ〳〵給ふ〳〵給ふ

御かた御あてなるさまもすくみえてたゆふ心さし
これそふかきいをつらぬともおもひしをそれもかしへぬ
きく御あふくすらかくうち覚しまでもおもほしまほ次
も一めなを給へ侍らむとゝかまめかしき御さりて
かゝめいかしこつかさもおもいつきのやうにと
みらん人はゝを御かし給ふ猶の君風情
いかわれ給まさりされてありさまのりける給へ
思ふ御ふかきうをもかなる花やうかうあはれ
いま給うかれわれはらかふさあよかゝる御心
やうふかしかうしうゑかくれしていたり
物思ふつきさ御いさまへつらむとこそ思ひ暮ふ
みなそうつたいに物あかりしらぬ紀にそれこれ
まくりにこそめの紀給ひつさかさり給ひて
いふらくかくしさきひてうき給ひそ猶いと
ゆめにもそれまゐらんと思ふを給ひ世
みそ御つま給ふてかすいとかしう思ひき
給ふこのわたくしもれ思ひてそまつ世にいか
めとりやかくそらんとてかさらん取る為
きいかむかしをうかうあるまことを世
とさん思ひ給ひ人の國にゆくさんつむ